

# バカテストの 布教本

原作未読者向け  
バカテストストーリーガイド  
＋ミニアンソロジー



# index

## 【バカとテストと召喚獣 ストーリーガイド】

キャラクター紹介 … 3

本編（ネタバレしない程度に）紹介 … 4

## 【ミニアンソロジー】

くらふと … 5

女王。 … 6

朱音 … 7

春女弥生 … 8

ほく … 8

やま … 9

和泉うらら … 10

結城音海 … 11

## 霧島翔子

きりしましょうこ



「……浮気は許さないと書いた」  
「……やっぱり、一緒に暮らして分かり合う必要がある」  
「……私は、ああやって、怖くても一生懸命になって頑張る人が好きだから」

A組代表（学年主席）の才女。  
序盤は「女のコが好き」という噂が流れていたが、実はとある男子生徒に**ソッコンLOVE**であるということが明らかに。カミングアウト以来、そのラブアタックは巻を追う毎にエスカレートしていつている。

## 島田美波

しまだ みなみ



「おかげでまた彼女にしたいくない女子ランキングが上がっちゃったじゃない！」  
「良かった…ウチが受ける余地はまだあるんだ…」  
「……………」ぞか」

日本語が著しく苦手なせいでFクラスに振り分けられた帰国子女。  
明久に暴力を振るうのが趣味と豪語する勝気な少女だがそれは愛情の裏返しという典型的ツンデレ。意外に乙女な部分を多く見せる。  
なお「貧乳」はブロックワードです。

## 姫路瑞希

ひめじ みずき



「私、このクラスの皆が好きなんです。人の為に一生懸命な皆のいる、Fクラスが。…だから、頑張れるんです」  
「明久君、ボークです」  
『あとは、隠し味にタバー』

試験で体調を崩し、最低クラスに配属された薄幸の学年次席。巨乳。  
パーフェクトな才女だが、近頃Fクラスやその周辺の環境に染められてしまっただけ、周囲も驚愕するようなとんでも発言をすることが…！？  
あと彼女の料理は人を殺せる。

## 清水美春

しみず みはる



「美春はお姉さまと結婚して、生まれてくる娘にお姉さまの『美波』から字を取って『未来』と名づけるのです！」  
「オマエのような男がいるから……っ！」  
お姉さまが泣く羽目になるんです！」

美波に恋心を抱くDクラスの百合ドリル娘。猛烈な男嫌い。美波を思う気持ちは本物だが、いろいろな意味で愛が重い。  
某ラブノベのツインテ百合娘とキャラが被っていると一部で評判だけど多分気のせい。ジャッジメントです！

## 木下秀吉

きのした ひでよし



「メイクも立派な演劇の技術の一つなのじゃ一悪いが、手加減できそうもない」  
「チャイナドレスを、ワシが着るのは冗談ではないのかのう……」

戸籍「男子」明久達の美少女クラスメイト。正ヒロインすらを凌ぐ色気で数多くの男子を惑わしている。世間では「秀吉の性別は“秀吉”」というのが一般常識。  
演劇部のホープで時々演劇が絡むと我を忘れることも。

## 土屋康太

つちや こうた



「……………！！（ザンザン）」  
「……………生徒が、教師に勝てないなんて、誰が決めた？」  
「……………最近、売れ筋が読めない」

「寡黙なる性識者（ムツリーニ）」の異名を持つクラスメイト。盗撮盗聴お手のものな犯罪ヤリヤ臭漂うムツリスケベ。保健体育の成績だけが特出している（他は明久以下）。盗撮写真をグッズ化して活動資金源にしているのは公然の秘密だ。

## 【その他の主要キャラクター】

工藤 愛子：ムツリーニのライバルなAクラス的女子生徒。「実践派」保健体育を得意とする。  
木下 優子：秀吉の双子の姉。Aクラスに所属する絵に描いたような優等生的女子生徒だが、実は…？  
久保 利光：ネタバレに配慮して敢えて触れなかったら、アニメ公式のクリスマス動画がやりやがった！  
根本 恭二：Bクラス代表。出てくるとだいたい最後で痛い目を見る小悪党。  
常夏先輩：明久と雄二を目の敵とする、3年の変態…先輩コンビ。↑と同じく小悪党ポジション  
藤堂 カヲル：試験召喚システムを開発した学長……ババア長。  
西村教諭：通称「鉄人」。厳しい指導に定評がある。明久達Fクラス男子の永遠の宿敵。

# バカとテストと召喚獣 キャラクター紹介

一部コメントに偏見が含まれております。あまり鵜呑みにはしないでください。

明久と雄二の扱いだけ無駄に大きいのは趣味です。

美春がメインキャラ扱いになってるのは枠の関け…ゲファンゲン

## 坂本雄二

さかもと ゆうじ



「お前らが俺に協力してくれるなら勝てる。いいか、お前ら。ウチのクラスは——最強だ」  
「俺はもう負けられないっ！次で勝たないと、俺の人生は！俺の人生は……！」  
「悪いが、これは戦争なんだ。俺にはクラスを守る義務がある」

明久の悪友にして親友。F組代表。  
興味のないことは基本的に首を突っ込みたがらない性質だが、一度本気を出せば毎回奇抜な戦略で上位クラスの面々を出し抜いていくFクラスの策士。曲者だらけのF組をまとめ上げるカリスマ性も持ち合わせている。得意科目は日本史で小学生の頃は「神童」と呼ばれる程の天才だった。  
幼馴染の猛攻アタックその他に悩まされながら、どこいなんとか（彼女の尻の下で）生きてる苦勞人。

## 吉井明久

よしい あきひさ



「だからどうして皆僕をソッチの人にしようとするの！？落ち着いて僕の話聞いてよ！」  
「秀吉は性別が『秀吉』を良いと思う。男とか女とかじゃないさ」  
「僕みたいなバカにだって、言っていない嘘と悪い嘘くらいわかる！」

主人公。《観察処分者》という、学園一バカのお墨付きを学校から貰ってしまったバカ。  
基本的に物事を深く考えない性質で成績は最低ランクだが、ひとたび本気になれば驚異的な集中力を発揮する。他人の為にふりかまわず一生懸命になれる、真っ直ぐで直情的な愛すべきバカ。  
悪友・坂本雄二との同性愛疑惑が常に囁かれていたが本人は全力で否定中。金銭感覚のないに一人暮らしなどしているせいで、塩水・砂糖水が主食という超・極貧生活を常に強いられている。



## バカとテストと召喚獣3

『あなたの秘密を握っています』  
そんな言葉と共に明久の元に送られてきたのは、文化祭の時の恥ずかしい写真。同じ人物から弱みを握られた雄二と共に二泊三日の強化合宿中に脅迫犯を見つけ出さなくてはならなくなったが、思いついた妙案は、何故か女子風呂を覗くことだった！いつもの4人で始めた女子風呂覗きの騒動はいつものまにやら、2年生の生徒及び合宿に参加していた教師全てを巻き込む大騒動へと発展していく！

シリーズ本編最バカとまで噂される(?)女子風呂覗き話。なんでこの題材で、こんなに無駄にアツいバトルが展開されているのか小一時間問い詰めたい。男のバトス恐ろしいです。保健体育の覇者・ムツッリーニの活躍や生身で人間以上のパワーを持つ召喚獣とやりあう西村教師と新たな能力を手に入れた明久による異種格闘技戦もなかなかの見物ですが、その裏で密かに蠢くラブコメ展開と、新たな人間関係もお見逃しなく！。でもなんだかんだで、一番素晴らしいのはあのオチだとおもう。

## バカとテストと召喚獣4

とある誤解が元で、美波と明久の仲が急接近!?新婚夫婦もびっくりのアツアツ具合に嫉妬の炎を燃やすF組の面々だが、美波のことを「お姉様」と慕うDクラスの百合娘・清水美春が大暴走。自分のクラスをけしかけ、油断していたFクラスは最大の危機を迎える事に…。雄二は窮地を脱しようとして一計を案じるが、それが更なる暗雲を呼んで…

絶体絶命の大ピンチに、明久のたった行動とは。

バカ全開の3巻とはうってかわってラブコメモード。もちろん、バカも存分にありますが、やはりメインは美波を中心にして展開されるラブコメ模様。美波の一面が見られるのには二ヤリとします。知らない間に完全に、三角関係の深みにハマっている明久に幸あれ。

しかし最大の見所は、やはり姫路さんのお料理の秘密の一端が明かされることではないか…その後もさりげなく様々なレシビが公開されましたが、未だあのゼリーのレシビに勝る驚愕はありません。

## バカとテストと召喚獣5

自堕落な一人暮らし生活を満喫する明久の元に、海外出張中の母親から「家族」という名の刺客が送られてきた！生活態度や学習態度如何では一人暮らし終了といわれ、必死に上手い事立ち回ろうとする明久だったが、あまりにも理不尽すぎる『減点』の数々に悲鳴を上げる日々。こうなったら期末試験の成績をアップさせて減点を帳消しするしかない！いつもの面々を巻き込んだの勉強会が開催されることになるが…

これまであまり描かれる事がなかった各キャラクターの「家庭生活」が描かれるお話。「母親からの刺客」はすでに以前の巻で存在は名前だけ示唆されていて、弟か妹か兄か姉か妄想してワクワクしていたのもなつかしい思い出。あのキャラとあのキャラの思わせぶり関係も少しだけ明らかに！ムツッリ商会が正式に商売の形をとりはじめたのもこの巻から。姫路リクエストの「ワイシャツボタン2つ外し上目遣い涙目明久」の生写真(抱き枕?)が欲しいです欲しいです超欲しいです。

# バカとテストと召喚獣 本編 (ネタバレしない程度に) 紹介

## バカとテストと召喚獣

テストの成績によって学力別にクラスを分け、それぞれのクラスの設備に違いをつけている私立文月学園。最上級のAクラスはシステムデスクに冷暖房完備…だけど底辺のFクラスは卓袱台に腐った畳という体たらく。学年1バカの称号を持つ高校二年生・吉井明久は不幸なアクシデントによって同じFクラスに振り分けられた美少女・姫路瑞希のため、テストの点数によって強さが変わる召喚獣を用いた学園独自のシステム「試験召喚戦争」を利用し、上位クラスから設備奪取を狙うー！

第8回えんため大賞編集部特別賞受賞作。この頃は、真面目(?)に召喚バトルしてたんだ…。いろいろな意味で本格的に弾けだすのは2巻以降ですが、下位のクラスが上位のクラスを様々な知略で打ち破って行く姿は爽快。個人的な見所は、総力戦になるBクラス戦かな。明久の召喚獣の特性とか熱血バトル要素とか、美味しいところが凝縮されています。

余談ですが、本文で出てくる「髪をポニテにしている秀吉」は全力で挿絵にすべきだったと思うのですが…！

## バカとテストと召喚獣2

学園での待遇・環境を気に掛けた姫路さんの父親が、彼女を転校させようとしている…明久達2年F組の面々は中華喫茶の売り上げで教室設備の改善を目論む傍ら、タッグトナメント形式で行われる「試験召喚大会」での優勝を目指すのだが、何故か様々な所から妨害を受けることに…。明久&雄二の「学園最低コンビ」は試験召喚大会での優勝を勝ち取るこ

とが出来るのか？

萌えと燃えが詰まったシリーズ第2弾。チャイナもいけどメイド最高だよメイド、と謎主張。

純粋なバトルでは足手まとい以外の何者でもなかった明久が本気出す話。トナメントではほぼまともに戦ってないですが(笑)その分決勝戦で見せる本気に胸が熱くなる。

秀吉が本気出すのも2巻以降だと思っ。普通にチャイナで接客+女子を差し置いて緊縛サービスする羽目になるその姿に、何故か涙が止まりません。明久最大の迷言「秀吉の性別は秀吉」が飛び出したのもこのお話。



## バカとテストと召喚獣6

学園側の設定ミスで、試験召喚獣が古今東西のモノノケに!? せっかくの楽しい夏休みを地獄の補習授業で潰され、灼熱の教室からなんとかして逃げられないかと道を探していたFクラスの面々はこそとばかりに夏季講習でやってきていた上位クラスを巻き込んで召喚獣を使った肝試しを行おうとする。ところがそこに明久&雄二コンビに恨みを持つ3年生までが乱入、話はいつのまにやら2年生vs3年生の肝試し勝負へと…!

夏休みの学校を舞台に繰り広げられる、肝試し大会編。とりあえずモノノケになった召喚獣達の可愛さ(?)に悶え苦しんでください。とりあえず明久の召喚獣がこれまでの元を取るかのようにカッコいいんですが! ラブコメ的にはついにやってきた姫路さんのタインにゴロゴロと床の上をローリングして埃を取りまくりそんな勢いですが、それよりも先に「とりあえず131ページの破壊力は異常」といいたい。

## バカとテストと召喚獣7

新学期早々行われた持ち物検査で偶然持ってきた大量のエロ本+α(主に抱き枕など)を没収されてしまった明久達。予想外の大きな被害を受けた彼らは一致団結、体育祭で行われる教師との交流「召喚獣」野球大会を利用して教師達への仇討ちと没収品の奪還を目論む。いつものように珍策奇策を弄して順調に勝ち上がっていくFクラスだったが、そこには思わぬ落とし穴が…!

先週発売されたばかりの最新刊。あらすじのとおり、エロ本奪取の為に召喚獣を使った野球らしき何かで遊ぶお話。3巻以来の突き抜けたバカ回かとおもったら、予想外にラブコメ・青春要素が強くてニヤニヤ。普段とはちよっと違った明久と雄二の関係や、意外に生徒想いの先生たちの一幕が楽しめるのもポイント高いです。あととりあえず、腐女子のお友達はみんなカラーページ見てきてください。最近の公式は良い意味で病気。

## 短編集

### バカとテストと召喚獣3.5

明久が「観察処分者」となったエピソードや雄二&翔子のハチャメチャデートのお話に海に行ったりバイトをしたり…という、お約束エピソード満載の短編集第一弾。思えば、明久の萌えキャラ化はこのあたりからはじまったと思えます。ドジっ子ウエイトレス可愛すぎ!

### バカとテストと召喚獣6.5

木下姉弟の入れ替わり話に波乱含みの夏休みの旅行のお話、雄二と翔子の小学生時代のお話を収録。浴衣の話が良くも悪くもフリーダム過ぎる…! いぞいぞもつとやれー! 「雄二と翔子と幼い思い出」はバカテスト初の三人称文体によるシリアス話。いつもとちよつとちがった「バカ」の世界を楽しめます。

島田さん  
カワイイ。

島田



## バカとパジャマと風邪疑惑

朱音

よく晴れたある朝、僕が登校すると、教室の中が妙にむさ苦しかった。

「あれ？　なんだか今日はクラスの様子がおかしいね」

違和感に首を傾げながら席に座る。といっても学力でクラス分けされる文月学園では成績に比例して設備の良し悪しが決まるため、学力最低を誇る僕らFクラスにあるのは机と椅子ではなく、今にも足が折れそうな卓袱台とすりきれた座布団だ。

「おはようじゃ、明久。今日はまだ姫路が来ておらんよつでの」

朝の挨拶と共にそう言ったのは、爺言葉が印象的な美少女の秀吉。演劇部のホープである彼は、性別の垣根を越えた存在として校内でも有名な人物だ。

って、本当だ。姫路さんがいないや。なるほど、だからただでさえ男女比率が47対2対1の教室が、男だらけで暑苦しく見えたわけだね！

「もうすぐHRも始まる時間なのに……姫路さん、どうしちゃったんだろう？」

「姫路はもともと体が弱かったからな……。この環境でどうとう体調を崩したんじゃないか？」

「確かに。このクラスの設備は本当に最低だもんね。座布団の中身はほとんどなくなっちゃってるし、窓ガラスはいくら

修理してもすきま風がやまないし」

Fクラス代表で悪友の雄二の言葉に、僕は深々と頷く。

みかん箱とごさ比べたらずいぶんマシになったけど、そもそもビニール袋とセロハンテープでの修繕が割れたガラスの根本的な解決になるはずがない。暑もなんだかかび臭いし。これだけ劣悪な環境じゃ、姫路さんのような繊細な人が風邪を引いてしまふのも当然の話だ。かわいそうに。

「そっか、姫路さんは今日は休みなのかぁ……」

なんだか寂しいな。優しくてかわいくて発育も頭もいい姫路さんがいないんじゃ、この教室はオアシスのない砂漠みたいなもの。ただでさえ荒れ果てた教室で野郎にまみれて授業を受けるなんて、地獄の沙汰としか思えない。

「これじゃ、僕らの心の癒しは一人だけかぁ……」

ため息まじりにそう言うつと、勝ち気そうな瞳に不穏な光を宿らせて、美波がじつと僕の顔をのぞき込んだ。

「――ねえアキ？　その最後の一人って誰のことかしら」

「うん？　そりゃあもちろん秀吉――待って！　今、何か刺さった！　僕のふくらはぎに何か硬くて尖ったものが突き刺さったよ美波!!」

昼休みになっても姫路さんは来ないままだった。担任の西村――じゃなかった、鉄人に聞いてみても連絡はないって言うし、やっぱり風邪なんだろうか。

「考えたんだけど、ウチ、今日の帰り瑞希のお見舞いに行こうかと思うの」

食へ終えたお弁当をしまいながら美波が言った。今日は彼女もどことなく元気がない。親友がいなくて寂しいんだろう。

「いいと思うよ。姫路さんもきつと喜くんじゃないかな？」  
一人で熱を出して寝てるのって結構辛いんだよね。暇だし、何をするにも億劫になっちゃうし。

と、そこでふと僕の脳内で閃いたものがあった。そっだ、お見舞いということは一――

「もしや――パジャマ姿の姫路さんが拝めるッ？」

「島田さん!!　お見舞いなら俺が行く!!」

クラスメイトのほとんどが一斉に立ち上がった。おかしい。僕は小声で呟いたはずなのに。

「……………!!　（ホタボタボタッ）」

「お主ら……動機が不純すぎるぞい」

「木下は黙っていてくれ！　俺は、俺たちは、やっと理想郷を見つけたんだ！」

「待っていて下さい姫路さん！　俺が今すぐ見舞いに行きますッ!!」

「弱っている病人の家がお主らの理想郷か……」

今にも教室を飛びだそうとするクラスメイトたちに、秀吉が呆れ顔だ。

「まあ待てバカども。そんなに大勢で家に押しかけても迷惑だろう。ここは少人数に絞り込むべきじゃないか」

姫路さんのパジャマ姿にとり憑かれた彼らが今すぐにでも

教室を飛びだそうとしているのを見かねて、雄二が冷静に指摘した。  
「……………同感」  
「雄二の言うことももっともじゃ。あまり大人数で行って、姫路の容態が悪化したらかわいそうじゃろう」  
「ま、島田が行くのは当然として、残りはせいぜい一人か二人ってところじゃないか？」  
「そっじゃの。皆が行きたいと言うのであれば、ワシは遠慮しようかのう……？　ん、そっいえば明久よ、お主はなぜさつきから大人しく座っておるのじゃ？　姫路の見舞いに行きたくはないのか？」

「嫌だなあ、秀吉。そんなわけじゃないか。ただ――」

なぜか美波が僕のふくらはぎを挟み取ろうとしているから、立ちたくても立てないのさ。

昼休みが終わり、午後の授業開始のチャイムが鳴った。時間に厳しい鉄人がガラリとドアを開けると、そこには、

「よし授業を始めるぞー……なんだこの部屋は」

――そこには屍しいなかった。

「気にせず授業を始めてくれ、鉄人」

「だからお前は西村先生と呼べと言っとるだろうが、坂本。

――ああ、そっそっ、姫路は午前中病院に行っていたらしくてな。午後から出席するそっだ……ってどうしたお前ら!?　なんでいきなり血の涙を流す!?!」





## 女の子「も」,かわいい作品です

バカテス布教本わっしょーい!! 明久や秀吉やムツリーニはまると他の方々が描いてくれたはずですので、趣味全開・気合満々で姫路さんに花背負わせましたヨ!  
「せきまんの秀なら頑張れる」正統派ラアコXとしても楽しめるバカテス、アニメ化を機にぜひお手に取ってみてください。

2009. 冬. 春世弥生・梓

「明久、担任からこれを預かってきたのじゃが」

そう言いながら僕に紙を差し出す秀吉。手渡しながら教室を見渡し、雄二の居場所を僕にきいてくる。ざらざらの藁半紙には鉄人の字が書かれていた。

「補修があるから逃げるな。……なんで漢字の上のふりがなが振ってあるのか、それをものすごく問い詰めたい」

「……………」

何も言わない秀吉。せつない気持ちを殺し、先ほどの問いに答えるために顔を上げる。

「雄二ならさつき霧島さんに引きずられて行ったよ」

「また何かやったのか、お主らは……」

秀吉の言葉に首を傾げる。何故だか僕と雄二は同性愛疑惑がかけられることが多いけれど、それは事実無根。というか、何故そんな誤解が生まれたのか逆に聞いてみたい。僕と雄二の仲の悪さは皆知るところだと思っているのに。

そして雄二が霧島さんにつれていかれて、けれど僕が何も被害がないというのは（まったく嬉しくないけれど）ほとんどない。いつも雄二のせいなのに僕にまで被害が及んで、思いついたくない様々な拷問を受けさせられた。今回は珍しく誰からもカッターもナイフも机も鈍器も向けられていなかった。

だから僕はこうして一人作業に動んでいたのだ。

「ときに、明久よ」

「ん？ なに秀吉」

藁半紙は見なかったことにして、丸めて机になっているみかん箱の中に押し込む。証拠隠滅。僕は何も見なかった。改めて秀吉に向き直れば、秀吉はみかん箱を挟んで向かい側に腰を落とした。

「先ほど姫路と島田に問われたのだが、霧島の手を握ったというのは本当かの？」

「待って秀吉。君の後ろでクラスメイトが文房具を手にとって僕を狙っているからそれ以上何も言わないで」

しかも秀吉に当たらないようにボジションを取っている。さすがF組というところだけど、僕の命がとても危ない。不用意な発言一つで僕のか弱い命は儼く散るだろう。ここは慎重に……

「階段の段を踏み外しそうになった霧島さんを助けただけだよ」

「総員第一種戦闘配備！ 裏切り者を殺せええええええ！」

「裏切り者には死を！」

「ええええええ何で!？」

十分違わず僕に向かってくるシャープペンやカッターナイフ、彫刻刀。殺傷能力が高いものばかりな辺り本気が窺える。秀吉は突然のことに目を見開いていた。それを横目で確認しながら僕は回避行動へと移る。扉まで五メートル。その前には武装したクラスメイト達。くそう、窓の退路も絶たれた……！

「逃げるな裏切り者！」

「待つのがじゃ！ 明久は人助けをしたのじゃぞ？」

それでも人数が少ないところを狙い逃げようとすると僕と、僕を仕留めようと追いかけてくるクラスメイトの怒号。秀吉は立ち上がりそんな僕たちに叫んだ。ああ、秀吉の優しさがシャープペンが刺さった手の甲の傷に優しく沁みわたる。

「本当に偶然だったんだって！ 霧島さんも自分を助けたのが雄二じゃなくてがっかりしてたって、言ってるわかついてきた！」

霧島さんがどれだけ雄二を好きなのか知っているけれどさ！

そりゃあお礼は言われたけど。その後霧島さんは「雄二に誤解されないように説明に行く」ってF組のほうへと歩いていった。僕がトイレから帰ったらその時にはすでに二人の姿はなかったの、二人がどこに行ったのかは知らない。廊下の向こう側で雄二の断末魔が聞こえた気はするけど、あくまで気のせいだろうし。

人助けで殺されそうになるなんて冗談じゃない。……クラスメイトは冗談でなく僕を殺そうとしているけれど。

「って、なんで姫路さんと美波がそのことを知っているんだろっ？」

あの時近くにいたのかな。何人か生徒はいたけれど、二人の姿はみかけてないと思うのだけど。

「それなら、皆が噂しておったぞ」

「え、……噂……？」

「うむ。さきほどわしが聞いた疑問が肯定文でそのまま」

肯定文ってことはつまり、僕が霧島さんの手を握った。ていうそれだけってこと？ 嘘じゃないけど、狙ってやったわけでもないのに！

「ていうか、あれからまだ十分くらいしか経ってないんだけど、何でそんな噂かもつ広まってるの!？」

噂が広がるのは早いというけれど、これは早すぎる。これは危険だ。こんなことをしている場合じゃない！ 早く脱出しないと――

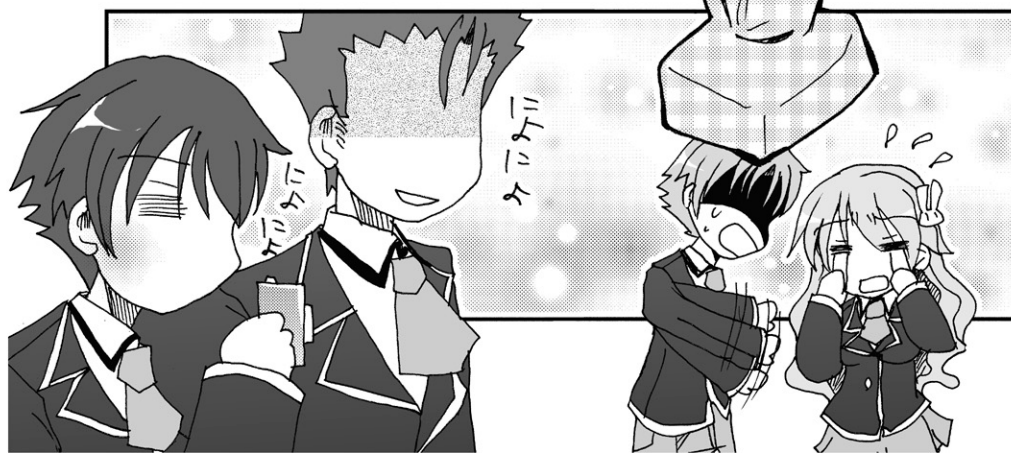
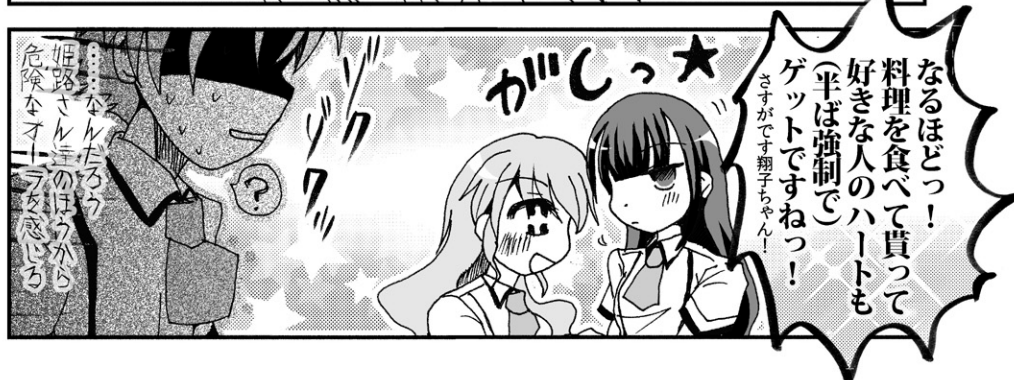
「明久くん、ちょっといいですか？」

「アキ、今暇よね？」

教室にいなかったはずの姫路さんと美波がいつの間にか僕の直後ろに立っていて振り返った僕に笑いかける。その後ろには同じようにいなかったはずのクラスメイト達が揃っていた。

その光景から、教室の真ん中で目が覚めるしばらく後まで、僕の記憶はあまり、ない。







アタシが二卵性双生児の弟と、同じ高校である文月学園に入ったのには、あまり深い理由なんてものはない。

四年前から始まったばかりの、上限なしの試験でどこまで点数を取れるのかが気になったとか、科学とオカルトと偶然により完成された『試験召喚システム』に心惹かれたりだとか、試験校だから学費が安く上がるとかそういう、いろんなものが積み重なった結果、雲泥どころか月とスッポンにたとえたほうがいいぐらい学力差のあるアタシたちは同じ学校へ通うことになった。

合格発表の日、弟も受かっていたと聞いて信じられなかったと同時に、あまりの学力差に同じ高校へ進学することは無理だろうと思っていた分は嬉しかったことは覚えていて。そう、そのときは純粹に喜んだし、心からお祝いをした。

アタシと違って本当にバカな弟なので滑り止めなんかもままならなかったからだ。

けれどその気持ちを忘れて心の底から後悔したのは、入学式どころか、入学前説明会、その日のことだった。

☆

「姉上、先に席をとっておいてくれるかの。ワシが資料を二

人分持ってこよう」

「わかったわ。適当に座ってる」

体育館の入り口でアタシたちは二手に分かれた。開始までまだ少々あるからか、並べられたハイプ椅子の埋まり具合はそこそこで、ステージから程よい位置でも二つ並んだ空席はわりと簡単に見つけることができた。弟のための席には鞆を置いておく。

そうしてゆっくり周りを見たのだけれど、意外なほど中学校の制服と思しき服装で来ている人が多い。アタシたちは自由な服装でどうぞという案内の元、先日中学校の卒業式も終わっていたのもあって、それぞれ私服で来た。

弟はまだ入学していないとはいえ、学校へ赴くのだから制服を着ていかなければいけないことを決めたけれど、アタシが私服を押し通したのだ。やっとあのださいセーラー服から解放されたんだからもう着たくないわ！

案内書にだってちゃんと、中学の制服を着てくる必要はありませんって書いてあったし、アタシたち以外にも私服の子がいらないわけじゃない。でも、この状況では、制服を着ていないアタシは容姿の相乗効果もあってひどく目立つ。

「まずったかしらね」

単体でもそこそこ人の目を引くの、まったく同じ顔を持つている弟とアタシが並んでいたら目立つにも程があることはこれまでの経験上よくわかっている。

「なにがじゃ」

「あら、早かったわね、秀吉」

子のレッテルを貼るところだったようだ。

「アンタ、もしかしてまた間違われたんじゃないの」

容姿が瓜二つのアタシがいうのもなんだけど、弟はとても整った顔立ちをしている。大きな瞳に、透き通るような肌と小さな顔。コイツは制服を着ているときはともかく、私服の時は性別を間違われないことがない。人の私服に口を出す気はないけど、女の子に間違われるのがいやならもっと別の服を着ればいいのに。

「受付で名はちゃんと名乗ったぞい。ワシが間違われるのも心外なんじゃが……どこからどう見ても男じゃろう」と、弟が口を尖らせて反論した瞬間だった。

「二なんだって!?」(ガタッ、ガタタタタッ)

うん、正直、まだ時間はあるのに随分人が多くなってきたとは思ってた。

秀吉が男であることをそんなそろって床に膝をついて嘆かなくなっていたいじゃない。おんなじ顔だけどアタシはちゃんと女よ!?

「それは、おそろく姉上がそのように鬼神のごとく怖い顔をして……あつ、姉上! ちが……っ! その関節はそっちには曲からな……っ!」

まったく、失礼な話よねっ!

いつの間にか書類の詰まった封筒を二通手にした弟が、すぐ傍にいた。学校名が入っている大きめの封筒に、ここに本

当に入学するのだと思ってワクワクしてくる。

「姉上の言うとおりで少し早めに来たのがよかったようじゃ

ワシが並んだあとは、すぐに受付は長蛇の列になりおった」

そう言っただけで弟はアタシが置いた荷物を持ち上げると、隣に座った。そこで荷物をアタシに返すのではなく、膝に乗せるあたりよくわかっている。

「こちらが姉上の分じゃ。制服の発注書なども入っているからくれぐれも間違わないようにと」

ああ、制服も忘れずに作りに行かないといけないのよね。

「終わったからお母さんに連絡して、さっさと行く?」

「そっじゃな」

文月学園の黒と赤を基調にしたブレザーは、ひそかにアタシの志望動機のひとつでもある。

しかし、へりつと封を破ってはいそいで中身を取り出すと出てきたのは男子用の制服発注書だった。

慌てて封筒の表を見ると、「木下秀吉」と見間違えようもなくはつきりと弟の名前が記されている。あまり頭のよくない弟だけ自分の名前も読めない程だったろうか。

「秀吉、こっちがアンタのみたいよ」

「んむ? じゃ、じゃが受付の先生がくれぐれも」兄弟の分と間違わないようにと念押しして渡してくれたのじゃが……ああ、こっちは木下優子とかいてあるの」

アタシはあやうく弟に自分の名前も読めないかわいそうな

# Guest

朱音

くらふと

**GalleryCraft** : <http://www.hcn.zaq.ne.jp/gallerycraft/>

女王。

春女弥生

ほく

やま

**noise** : <http://noise.daa.jp/noise/>

**結城音海 / Soundsea**

屋根裏の住人たち : <http://attic.xrea.jp/>

---

発行 : CELESTE BLUE

ストーリーガイド作成 & 首謀者 : 和泉うらら

URL : <http://blue-black.sakura.ne.jp/blue/>

MAIL : [urara@blue-black.sakura.ne.jp](mailto:urara@blue-black.sakura.ne.jp)

発行日 : 2009/12/30